

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示して常に念頭において介護に望むように心がけている。課題が生じた時や判断に迷う時は、判断の基準を「理念」に置いている。	地域密着型サービスの意義や事業所の役割を理解し地域の人々と共に暮らすことを事業所の理念にしている。日々のケアを振り返り理念の共有、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生や保育園児と交流を持っている。運営推進委員の方々を中心に“気楽に立ち寄れる所”を地域住民の方に広める活動をしている。	保育園や小学校の子供達の訪問や中、高校生の福祉活動(体験学習、施設見学、実習等)の場、また各種ボランティアの訪問があり地域に開かれた事業所となっている。地域の運動会、お祭りなどに出かけ交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のキャラバンメイト講座を受講し、地域向けのサポーター養成講座の開催を始めたり、実習生の受け入れを行っている。ショートステイも受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果を踏まえて、委員の方々に協力をお願いしたり、活動報告では率直な意見を頂いたりと双方向の話し合いの場になってきている。	不定期ではあるが会議は開催されている。この会議を通して更に入居者、事業所と地域のつながりが深められるよう取り組んでいる。	今後は区長、駐在所警察官、消防団員などの参加も考えていると伺った。定期的な会議が開催され、会議を活かした取り組みが行われることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月のお便り「ふれあい通信」を見ていただいている。担当の方と電話や訪問で情報を交換したり、相談に乗っていただくなど連携を深めている。	時々市福祉課の窓口に出向き事業所の様子を伝え、運営や介護サービス等の相談をしている。また、認定更新時には担当者に入居者の様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加したりして、身体を直接的に奪うだけではなく、施錠や本人の意思を無視した誘導や行動制限も身体拘束となると理解して取り組んでいる。	全職員、身体拘束の具体的な行為を理解しており、その行為による弊害についても認識している。現在ミトン型手袋を使用している入居者に対し保湿クリームの塗布、気分転換を図ることなどで解除の時間を徐々に増やしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会で学び、「自分がされて嫌な事は、虐待の可能性があると」言う考え方のもと、虐待防止に努めている。		

グリーンクリスタル・TWO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受け、施設内勉強会でも取り上げている。両ユニットで日常生活自立支援事業利用者1名、成年後見制度1名の利用がある。必要に応じて家族に説明も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ複数関係者に同席していただいて説明を行い、共通理解が得られるように心がけている。時間をかけて細かく説明を行い、その際に意向や希望も伺う。制度改正、料金改定などもその都度同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、利用者の言葉や態度等を大切に受け止め、その情報を共有し改善にむけ、その都度、カンファレンスを行っている。家族には、入所契約時に相談・苦情受付窓口(者)と外部機関を文書に明記し説明している。	家族会があり会長は何かあれば家族の代表として意見、要望を伝えている。管理者は積極的に家族等と話す(面会時や電話、手紙等)機会を作っている。出された意見、要望は直ちに検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に、毎月開催するスタッフ会議で、運営に関しての方針等について、職員に説明を行うと共に、職員の意見を聞き、皆の総意を基本として決定している。管理者や運営者の意見を押し付けることなく、一人ひとりが考える運営を目指している。	毎月の会議ではテーマを決めて話し合っている。職員は自分の意見を持っている。その場での意見や提案はサービスの向上に役立てられている。気兼ねなく意見や要望が言いやすいように日頃よりコミュニケーションの円滑化が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、それに基づき個別面談を行い、課題と目標を明らかにし、向上心を持って働けるしほみを築いている。職員の資格取得や意欲に生かされるよう、内外の研修等、積極的に参加できるよう勤務シフトを考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、施設内または外部研修に参加できるよう勤務シフトを配慮している。受講した研修は、報告書を作成すると共に、勉強会で他の職員に伝達し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域(長野圏域)のグループホームとのネットワークが出来上がり、会合を重ね、情報交換や勉強会の場となっている。		

グリーンクリスタル・TWO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から、本人の考えや趣味趣向など、本人の言葉を大切に、傾聴することに努めている。可能であれば、家を訪ね、本人の話しやすい環境で話を聞くようにしている。本人の不安や混乱も考え、徐々に環境に慣れていくよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からも話を聞く機会を設け、本人の思いと家族の思いの違いを知り、本音をくみ取るようにしている。聞く姿勢を一番大事にし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同法人内の施設の紹介や、相談の橋渡しをしている。在宅介護支援センターと協力し、その状況に応じた情報を提供したり、近隣のグループホームに連絡を取り紹介をしている。場合によりショートステイとして、受け入れる体制も整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するがわ、される側を作らないということ、日頃から職員間で確認している。一緒に生活する仲間ということを感じ、信頼関係が構築できるよう意識している。また、本人の力が発揮できる場面を意識して作り出している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報や思いを共有し、連帯することで、共に本人を支援していくという関係が築けてきている。ケアプランの中で、家族に担っていただく役割を出るだけ具体的に盛り込むようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中で、親しい方の話題を出したり、昔の写真を見たり、遠方の家族に葉書を書いたり等、それまでの関係が継続されるよう、家族にも理解と協力を得ながら行っている。	一人ひとりの生活習慣から馴染みの場所や友人、家族のこと、趣味などを職員が把握しており、入居後もそれらが継続できるように支援している。家族との文通、お盆やお正月の帰省、お不動さんや地区のお祭りなど、一人ひとりの楽しみを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者間の関係を情報共有し、必要以上の介入は避け、傍らで程よい距離から見守りつつも、時として働きかけることで、孤立を防ぎ、利用者間のバランスを保ち、個々の持ち味を引き出していけるよう支援している。		

グリーンクリスタル・TWO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所した利用者の家族から、感謝の手紙が送られてきたり、逆に、施設の月間通信を送付したりというやりとりがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、会話や表情等を通して、また、問いかけることで、意向把握に努めている。会話が困難な利用者の場合は、快・不快の表情を良く見て思いの把握に努め、職員間で、その情報を共有するようにしている。	入居者一人ひとりがその人らしく暮せる支援のために職員は入居者が何をしたいのか、どうしたいのか声をかけて確認したり表情からも読み取るなどして把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に伴う面談の際や、または、入所後の会話の中で、利用者の家族から生活歴等について聞いた話を記録に残し、職員間で情報を共有し、支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の気付きや記録等を通して、複数の職員から見た、利用者の姿を情報共有し、多角的な把握に努めている。月に一度、ユニットでカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によるケアマネジメントを取り入れ、本人の意向を汲み取る努力をしている。本人の言葉を大切に、その中にこめられた思いを探っている。チームでカンファレンスを行い、様々な視点から検討を重ねている。	入居者、家族の意向を基に個別の介護計画が作成されている。受け持ち担当は入居者の代弁者となる役割も兼ねており詳細に把握している。評価、見直しは身体や生活状況を確認しながら定期的に行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、特に利用者が発する言葉や、血圧等の客観的な健康状態を、利用者ごと個別に記録し、その情報を共有している。特に変化のあった事項についてはカンファレンスを行いプラン立案に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師の勤務による、医療連携体制を整え、ターミナルケアや、ショートステイで、ケアハウス利用者を受け入れ、通所に向けたモデルも実践した。複合施設である利点も、積極的に活用していきたい。		

グリーンクリスタル・TWO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練への参加、ボランティアによる催しやお手伝い、地域の保育園、小中高生との交流などを行っていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族が選択しているが、協力医を、かかりつけ医とする利用者が殆どである。看護師等は、必要な時FaxやTelで連絡を取り合い、適切な対応に努めている。定期診察の他、病院受診等の対応もかかりつけ医と相談の上、行っている。	入居者、家族の希望で主治医が代わる場合はかかりつけ医の紹介状により医療の引継ぎが行われている。入居者の健康状態に急変があった場合は適切な医療を受けられるよう医療機関との協力体制も構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を2名確保し、医療連携体制を整えている。日常の健康管理、服薬管理、医療機関との連絡、非常時の体制をとっている。また、複合施設の利点を活かし、バックアップしてもらえるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となる場合、多くは協力医療機関である須坂病院に入院している。その窓口である、地域医療連携室との連携を密にしている。情報を交換することで、利用者の状態を把握し、入院中、退院後においても適切な支援に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえて対応していくことをターミナルに関する指針としている。家族も職員も納得して、安心した終末期を送れるよう話し合い、それに基づいたケアプランを作成している。また、看護職員が中心となって知識・技術・判断力を身につけられるよう勉強会を行っている。	入居者、家族には入居時に重度化や終末期に関してのホームの態勢を指針と共に説明している。職員は指針を熟知し研修会などで知識を得ている。本人家族の望む終末期を質の高い生活で提供できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習への参加や、職員の勉強会で رفتりして、心臓マッサージ・人工呼吸・AEDなどの実技を含み学習している。緊急時の職員体制なども整備しており、必要な職員がいち早く駆けつけることができるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で夜間と昼間を想定した防災訓練を実施し、地域の消防団等の方々も参加し、利用者も参加している。地震により連絡が取れなくなった時の取り決めも行った。スプリンクラーの設置予定。	非常災害時のマニュアルがあり定期的に昼夜の災害を想定した実践的な訓練を複合施設全体で行っている。月一回、火災危険防止のために入居者の避難の方法を考えたり、火災を起こしやすいコンセントの掃除や消火器の位置確認などを行っている。	

グリーンクリスタル・TWO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を大切にすることを、理念においても謳っており、プライバシーを守ることについての意識向上を図っている。日常的にチェック、確認や改善を行っている。	プライバシー保護に関するマニュアルがある。職員の話しかけに笑顔で返す入居者の様子から、日々、誇りやプライバシーを損ねない支援が行われていることが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日々の様子を良く観て、時には問いかけ傾聴するということを大切にしている。相手の気持ちや意思の表出をゆっくり待ったり促したりして、自信がもてるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、業務を優先せず、一人ひとりのペースや、その人らしい暮らしを理解し、その日の状態に合わせた個別の対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は、おしゃれな服装にと声かけをしたり、共用の化粧品を使いおしゃれをすることもある。家族の協力の元、行きつけの美容院へ通っている利用者もいる。施設内での散髪も、理容・美容の選択もしていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に使う野菜の下ごしらえから、配膳・下膳・食器洗い等の一連の作業を職員と一緒にやっている。また、好みを話し、外食に出かける等の工夫もしている。	入居者は出来る範囲で食事の準備や会話に加わっており、食事が楽しいものになっている。献立作りや料理の音、匂いなど、五感が刺激されて食事への関心を高めている。食事中は和やかな雰囲気になり溢れていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて量を配慮したり、野菜を多く取り入れる等、栄養のバランスを考えた食事を提供している。いつでも水分を摂取できるように食堂にはポットを用意している。声掛けにて水分摂取を促すと共に、水分量のチェックも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ADLに合わせ、声掛けや介助でうがいや口腔ケアを行っている。その際、口腔内の状態把握にも努めている。夜間には、義歯を預り洗浄している。歯科医の往診も行っている。		

グリーンクリスタル・TWO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや、利用者がその時に発するサインを把握し、出来るだけトイレでの排泄が可能となるよう支援している。	一人ひとりのサインや誘導の時間を活かしながらトイレでの排泄や排泄の自立にむけた個別支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が認知症状の憎悪につながることを職員は理解しており、個々に排便チェックと調整を行っている。適度な運動、乳製品の摂取、食事内容に工夫し、薬による調整が必要な方は、状態をチェックして医師に相談しながら、看護師の指示により調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を基本にしている。普段は、入浴剤を使用し、香りを楽しんだり、菖蒲湯などの季節感を取り入れ楽しんでもらっている。また、職員とのコミュニケーションの場にもなっている。	入居者の希望があれば時間にとらわれず適宜対応している。状態的に入浴が困難な入居者には代替支援が行われている。安全な入浴のためにバイタルチェックや看護師、職員2人での介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を観て、休息や午睡を促している。それ以外の時は、できるだけ離床し活動を促し、適度な疲労感を得ることで、安眠に繋がるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理表で内服薬等が一覧でき、処方の変更された場合は、副作用等について看護師から説明を受けている。変化が生じた場合は、職員間で情報を共有し、看護師に報告している。服薬は、状態に合わせて支援し、必ず確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、役割を持っていただくことで、自信や活気に繋げる取り組みを行っている。生活歴の中から可能なことをさりげなく働きかけ、できたことに対して一緒に喜んだり、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を希望する利用者がいれば、他の利用者も誘って職員が付き添い出掛け、庭に出て景色を楽しみたい利用者には、テラスに椅子を用意し、ゆっくり眺められるようにしている。また、菜園の野菜を収穫したり、草取りを職員と共に行う姿も見られる。	希望に沿った個別の外出支援が家族やボランティアの協力を得ながら行われている。気分転換や五感刺激などのために日常的に外気に触れる機会を取り入れている。	

グリーンクリスタル・TWO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣に買い物をする場所がないこともあり、日常生活において、お金を所持したり、利用する機会が少ないが、外出やイベントの時には、お小遣いで買い物が出来るよう、個々にお財布を渡し使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい要望のある方に対しては、家族の負担がない範囲で、電話を掛ける等の支援を行っている。家族の協力を得て、遠方の家族と葉書のやり取りを楽しんでいる利用者もいる。年末には、家族に宛てた年賀状を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐かしい歌謡曲等を流し、観葉植物や花を飾り、くつろげる空間作りに努めている。壁には、行事や外出時の写真を飾ったり、皆で協力して作ったちぎり絵などを飾り、利用者の話題作りに一役かっている。	居間からは大きな窓を通して田畑や点在する家屋、遠くには色づき始めた里山が望める。入居者や職員はそれぞれに食堂の椅子やコーナーのソファに腰掛けて作業やおしゃべり、テレビや新聞を見て過ごしている。ペットの犬もいて温かい家族団らんの光景があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテラスにも椅子を置いている。廊下のソファでは、1人静かに物思いにふけったり、気の合う利用者同士で会話を楽しんだりしている。テラスでは、1人や利用者同士で日向ぼっこや夕涼みをして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた家具類や、好みの品を用意していただくよう、お話している。勉強机やソファを置いたり、家族との写真や、お花を飾ったりと思い思いにくつろげるように工夫されている。	本人が大切にしていた物や愛用品、家族写真などが持ち込まれて本人が自分の場所と感じ安心して過ごせる居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーで各所に手すりを設置している。起き・立上りが困難な利用者には、ベッド用手すりを設置、入浴時には、バスボード・滑り止めマット等を使用し、歩行が不安定な方は杖やシルバーカーを使用している。		